

抑肝散

木下 優子

<原典>保嬰撮要 (薛澄)

小児に使用する方剤で、母子同服の記載がある。

錢氏小兒直訣 (薛己注解本)

93

肝有風則目連劄得心熱則發搐或筋脉牽繫而直視用瀉青丸以治肝導赤散以清心○肝熱則目赤或兼青發搐者亦用前一藥風甚則身反張強直用地黃丸以補腎瀉青丸以治肝

薛按前症若肝經實熱而自病宜用瀉青丸若肝經血燥而自病用抑肝散腎水虛不能生肝者宜用地黃丸

黃丸若脾土虛不能培木者宜用六君子湯凡肝經既病風火相搏則肝臟虧損若不固根本必變他症百出也

抑肝散治肝經虛熱發搐或發熱咬牙或驚悸寒熱或水乘土而嘔吐痰涎腹脹少食睡臥不安

軟柴胡 甘草各五分 川芎八分 當歸

白木炒 茯苓 鈞藤鈎各一錢

右水煎子母同服如蜜丸名抑青丸

抑肝散は肝經の虚熱、ひきつけあるいは発熱して歯がみするもの、寒熱に驚き肝の脾に乗じて痰涎を嘔吐し、腹ふくれ食少るく、睡眠がよくとれない者を治す

→ この部分が
宋刊三卷本
熊宋立注解十卷本
にはみられない

疫症ニ大柴胡或大柴胡加芒硝ナト用テ解熱シテ後大ニ
肝氣動シテ謔言妄語ノ狂ノ如ク是ヲ攻レハ攻ルホト其
勢盛ニ成モノナリ此處ニテ取アツカヒアシケレハ必仕
損スル者ナリ余往年此症ニヤハリ下劑ヲ用テ居テ何分
治セザリレヲ一盃至リテ小劑ノ十一味温膽湯ヲ用タレ
ハ服スルヲ一貼ニシテ謔妄サツハリト止タルヲアリ又
同症ニ腹診ノ差別アリテ抑肝散ヲ用テ治シタルヲモア
リ

小兒時令ニ感レ熱アルモノナト只時令アレヒノミシ
テハ甚埒ノ明サルアリ時氣ニ因テ持マイノ肝氣ノ動シ
額ナトニ青筋立テ甚腹立テヤスキモノニハ抑肝散ニテ
至テ手キハニサムルアリ

老若ニ拘ラス不圖ノ髮ノ赤ク成ル人アリ肝火ノノ也此
モ其脈腹次第ニ抑肝四逆大柴胡或虚候アラハ地黄劑ナ
ト其々ノ行間ヲ見合セ用レハ治スルモノナリ

喘ニ抑肝散加芍藥ヲ用ル手段アリ

抑肝加芍藥湯

此藥モ亦四逆散ノ裏方ニ腹形大抵四逆散同様ナレド
拘攣腹表ニ浮ミタルヲ抑肝ノ標的トス四逆散ハ拘攣
腹底ニ沈ムヲ標的トスベシ其上抑肝ノ方ニハ多怒不
眠性急ノ症ナド甚シキヲ主症トスルニ多怒不眠性急
ナドハ肝氣亢極ノ徵ニ肝氣亢極スレバ肝火熾盛ニノ
肝血モ亦随テ損耗ス故ニ歸芍肝血ヲ潤シ芍藥肝血ヲ
疏通シ柴胡釣藤甘草肝氣ヲユルム既ニ右ノ通り肝氣
亢極ノ上ニ胸脇ニ引上ルユヘ腸胃ノ水飲モ下降セズ
ノ皆上ニ引上ルニ右疏肝緩肝潤肝ノ藥ニテ兩脇心
下和ラギ彼水飲モ下降シ易キ時節ニナルユヘ朮苓ニ
テ小水ヘ消導スルニ○本方芍藥十シ甘草今量モ亦少
シ按ズルニ此藥專ラ肝氣ヲ潤シ緩ムルヲ以テ主トス
故ニ余常ニ芍藥甘草湯ヲ合テコレヲ用ユ

和田泰庵方函

抑肝散

治肝氣亢極 轉胞小便不利加芍藥

先主打撲ニ水桶ニ時ヲ入テ板後酒ヲ吞シ大夜具ニテ包ミ汗ヲ
セシム如神 兎角抑肝ノ事ニ抑肝加芍藥

長沢道寿

一新産婦未及滿月發熱腸痛咳嗽肢身
搐動唇目抽搭医用補血調氣之劑再三

香新抑肝散 專治肝經虛熱發音
或發熱咬牙或驚悸寒熱或木乘
土而嘔吐痰涎腹脹火食睡臥不
安
柴胡 甘柳各五 川芎八 當歸
白朮炒 茯苓 鈞藤鈞各一
石水煎 子母同服如蜜丸名抑青
丸
○愚按錢仲陽云肝主風實則目

其症發或加小便澀少事急而延等診
之六脈若數子反復思之不得病因以故
屏入細問其情乃夫以實告曰如此如此
因與本方下三貼而平後用加味歸脾湯
而愈大抵產後新血未充真元未固凡有
二事竹情則怒火如烟以致發失身命者
不少矣医若臨機少有疑慮不可不細問
也

和田東郭以前乃のて

小児についての甲法。

直大吐項急頓悶虛則咬牙呵欠
竊謂小兒屬少陽故病則肝火症
多是方也柴胡鈞藤鈞能抑肝火
川芎當歸能補肝血木乘土則脾
胃衰白朮茯苓甘柳所以補助脾
氣也

和田東郭以前乃のに

半身不隨!? ↓

抑肝散口訣

此方ハ、小児ノ肝血不足ニノ肝火動キ、發熱驚
悸、搐搦咬牙等ノ證ヲ治スル為ニ設ケタル方
ナリ、小児ノ稟賦、至ツテ虛弱ノ者ハ、面色身体
色至ツテ白ク、少シテガシテモ、血出サル者ハ、
此血不足ノ證ナリ、此方ヲ平日久服スベシ、又
上件ニ云ホドニ、血虛ノ候モナク、發熱較ニノ
件脈トラリ、或ハ左、或ハ右ノ脇下ニ、筋バリア
レ疋、サノミ虫積ノ候モナク、怒強ク性急ナル
等ノ兒ハ、皆肝血不足ノ證ナリ、此方ヲ久服ス
ベシ、又虛證ノ兒、不時ニ發熱シ、或ハ常ニ睡中

咬牙スル者、此方ヲ服スベシ、サテ木人半身不
遂ノ證モ効アリ、左ニ痺急アリ、又ハ心下ヨリ
件脈ドラリニ、寧急動悸アリ、心下ニ氣聚リテ、
痞塞シ、医コレヲ按ノモ、サノミ痞ヘモ見ヘズ
病人ニ問ヘバ痞ヘルト云ノ證ニ、果ノ驗アリ、
上件ノ證アラバ怒ハナシヤト問フベシ、此ア
ラバ効ナシト云フナシ、又不寐ノ證ニ、此方ノ
應ズル者アリ、此亦上ニイフ所ノ諸證、并ニ腹
候ヲ標的トスベシ、痼證不寐ノ者ニ、別ノ効ア
リ、前ノ温膽湯ノ口訣ニ辨ズルガ如ク、不寐ノ
證ニ、心虛アリ、痰飲アリ、肝虛アリ、能々脈證ヲ
審ニメ、治方ヲ處スベシ、

抑肝散

食睡卧不安

治肝經虛熱發搐或發熱咬牙或驚悸寒熱或吐痰涎腹脹少

白朮 當歸 茯苓 釣藤 柴胡 川芎 甘草

按大人兒虛症痾泄用此症多分元肋引或熱有テ弦脈ラ見ニ元肋引脹痛氣介不了ニ者此湯ヲ或手足足ヒツリ多ハ筋引痛ヲ柴胡一ニ高肋ヒツリ用トモ筋ノ引ツラ目的ニハス此湯ノ効ヒキツリ痛ヲ目的トス

漢陰臈乘(小兒類)

百々漢陰

抑肝散

薛已補註 小兒直訣

此方主治虛熱トモ目當ナリ 實熱ヲ搖

擗咬牙者者六十金龍胆湯或泻青丸或當歸龍薤丸

ナドノ藥主トシ此症肝經虛熱ヲ前諸方ハ虛實カテ知

ル此症肌熱強ク邪氣モ紛レテ之脈弦左ノ脇腹拘攣

強ク目的トス發痾熱強ク者ハ羚羊角黃連吳茱萸ナドヲ

加テ用ユニ尤方後母子同服ニ法ニ按テ乳香子母ニ類服テ

可ク轉ノ大人男婦モ丸脚拘攣甚シク肝經虛熱者ハ至テ

宜シ其内モ婦人ニ尤ヨクキナリ

↑ 和田東郭以前であるが、成人に使用すると記載あり。用法は小兒に準ずる。

男性に女性に効く)の記載あり 經母乳投与

← 和田東郭以後で、成人の半身不隨に有効という記載が出てくる。

勿誤藥室方函口訣(二七八) 浅田宗伯

抑肝散 概要

治肝經虛熱、發搐、或發熱咬牙、或驚悸寒熱、或木乘土而嘔吐痰涎、腹脹少食、睡臥不安

柴胡 甘草 川芎 當歸 白朮 茯苓 釣藤

右七味、東郭去白朮茯苓加芍藥、名六抑湯、又去川芎加半夏梔子黃連沙草、名加減抑肝散

此方は四逆散の変方にて凡て肝部に属し筋脈強急する者を治す。四逆散は腹中任脈通り拘急して胸脇の下に衝く者を主とす。此方は左腹拘急よりして四肢筋脈に攣急する者を主とす。此方を大人半身不隨に用うるは東郭の經驗なり。半身不隨并に不寢の証に此方を用うるは心下より任脈通り攣急動悸あり心下に氣聚りて痞する氣味あり。医手を以て按ぜば左

のみ見えねども病人に問えば必ず痞と云う。又左脇下柔なれども少筋急ある症ならば怒氣はなしやと問うべし。若し怒氣あらば此方効なしと云うことなし。又逍遙散と此方とは二

味を異にして其功用同じからず。此処に着眼して用うべし。

<処方内容>

蒼朮4、茯苓4、川芎3、釣藤3、当帰3、柴胡2、甘草1.5

(原典 ちひ 白朮)

<方意>

釣藤鈎：鎮静鎮痙。肝木を平らかにする

釣藤+柴胡+甘草：肝気の緊張を寛解し神経の興奮を鎮める。

当帰：肝の血流をよくし、貧血を治す。

川芎：肝血をよく疎通させる。

茯苓+蒼朮：停滞した水を去る。

<使用法>

肝気の高ぶりによる興奮を抑え、鎮静させるところから抑肝散と名付けられた。

小児：いろいろ癇癩を起ししやすい。頭痛、腹痛など、症状の表れは様々であるが、原因は心にある。母子同服させる。

大人：多怒・不眠・性急

神経過敏、興奮して眠れない。抑鬱傾向が見られる。

自覚症状：頭痛、不眠、筋攣縮、眼痛、倦怠感、頸こり、肩こり

感情傾向：表情が固い、焦燥感、抑鬱、強迫、怒りっぽい

脳血管性頭痛

筋緊張性頭痛

頸頸腕症候群

脳卒中

神経症

不眠症

パーキンソン病

ビタミンD欠乏症

あがり症

不整脈：釣藤鈎には抗不整脈作用あり

高血圧・動脈硬化

糖尿病：頑固・易怒

甲状腺機能亢進症

虚弱体質

夜啼

癲癇

チック (抑肝散加芍薬)

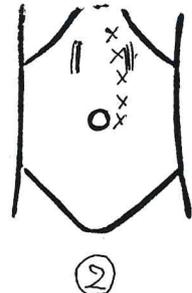
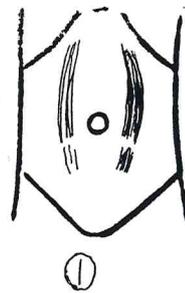
微弱陣痛：難産で気が上逆している (抑肝散加芍薬)

陰萎症：神経質で緊張している (抑肝散加芍薬)

神経性斜頸 (抑肝散加芍薬甘草)

更年期障害 (抑肝散加陳皮半夏)

ヒステリー (抑肝散加陳皮半夏)



<腹症>

四逆散の変方であるため、これに似る。

緊張興奮型と弛緩沈鬱型

①

②

腹直筋緊張 (左>右、上>下)

腹部動悸 (左)；抑肝散加陳皮半夏

左臍傍部の圧痛

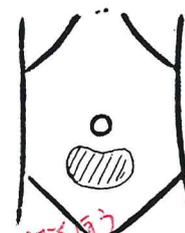
轉胞の証

<最近の文献>

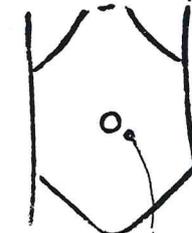
脳神経系および精神科領域の報告が多い。

抑肝散
Tegicun R. 4
肝に。

OPCD
Tegicun R. 4
肝に。
しんかん



轉胞の証
冷たい血のほう
木田東野



肝虚
綿のほうにでけらる

抑肝散、抑肝散加陳皮半夏の有効例
-藤原 二郎-

生薬：
成分：
処方：抑肝散、抑肝散加陳皮半夏

雑誌名：漢方診療 8巻 1989年 6号 47頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：①対象：神経症患者17例 期間：4週間②結果：1)軽快した症状は多種多様であったが不定愁訴の訴えが47%に、又証としては腹皮拘急の証が30%に認められた 2)CMIを16例に施行した：14例がIII、IV領域 3)怒りと過敏が特徴的であった 3)抑肝散の方がやや実証の傾向が認められた

「返品」：副作用情報128

生薬：
成分：
処方：抑肝散合黄連解毒湯

雑誌名：東医研データ 巻 1991年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s49.7.26、女]：上記処方後、眠気を催す。その後、桂枝湯合麻黄湯に変更となった。

「返品」：副作用情報89

生薬：
成分：
処方：抑肝散

雑誌名：東医研データ 巻 1990年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：肝・胆・腎
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：肝炎[T15.7.19、女]：抑肝散で頭痛、加味逍遙散でのぼせ、当帰芍薬散で肝障害が発現する。その後2/3(温清散)加釣藤4黄耆3に変更となるが、軽快しなかった。

「返品」：副作用情報205

生薬：
成分：
処方：黄連解毒湯合抑肝散

雑誌名：東医研データ 巻 1992年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s41.3.18、女]：上記処方後、悪化。その後、黄連解毒湯合桂枝茯苓丸加麦門冬8に変更となった。

マウスに対する柴胡加竜骨牡蛎湯および抑肝散のWheel-Running Activityに及ぼす効果 -伊藤 忠信-

生薬：
成分：
処方：柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散

雑誌名：基礎と臨床 19巻 1985年 2号 227頁 通算1033頁

報告：実験 標的器官：筋・感覚器系
剤形：エキス剤 投与経路：動物経口 投与量：200.00mg/kg
併用薬：diazepam[DZ], methamphetamine[MAM], pentobarbital[PB]

内容：①柴胡加竜骨牡蛎湯は正常状態のマウスのWRAには作用しないが、MAMによるWRAの増大に対しては抑制的に、PBによるWRAの減少後の回復時に対しては促進的に作用した②抑肝散は正常状態のマウスのWRAに対しては促進的、MAMによるWRAには作用せず、PBによるWRAに対し抑制的だった

臨床的立場から診るアルツハイマー型老年性痴呆症(4) 抑肝散加陳皮半夏湯、釣藤散の長期内服による老年性痴呆に対する効果 -荒木 五郎-

生薬：
成分：
処方：抑肝散加陳皮半夏湯、釣藤散

雑誌名：現代東洋医学 12巻 1991年 1号 23頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：①対象：抑肝散及び抑肝散加陳皮半夏湯-脳血管性痴呆32例アルツハイマー型老年性痴呆、その他8例、計40例 対象：釣藤散-脳血管性痴呆23例アルツハイマー型老年性痴呆、その他13例、計36例②結果：抑肝散加陳皮半夏湯、釣藤散が老年性痴呆に対して有効である事が報告された

小児精神科領域における抑肝散の使用経験
-中川 和子-

生薬：
成分：
処方：抑肝散

雑誌名：漢方診療 7巻 1988年 1号 40頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：5.00g/day
併用薬：

内容：①対象：小児精神科領域疾患30例 期間：8週間②結果：1)症状別 興奮性過多-78%多動-92.9%の有効性が認められた2)疾患別 自閉症-78.6%注意欠陥障害-50%癲癇-73.3%の有効性が認められた③症例報告：癲癇[16歳、男]注意欠陥障害[17歳、女]投与後2週間目には軽快をみた

パーキンソン病のL-dopa治療中に出現したInterdose dyskinesiaに対する抑肝散著効例 -関 久友-

生薬：
成分：
処方：抑肝散

雑誌名：現代東洋医学 12巻 1991年 1号 244頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：筋・感覚器系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：7.50g/day
併用薬：

内容：症例報告：パーキンソン病患者(69歳、男)抑肝散を投与した結果、Dyskinesiaの著しい改善が認められた。
参照：難病、難症の漢方治療第4集(臨時増刊号)